柏崎体育

發行所 柏崎体育団事務局
（柏崎市役所内）
發行編集人 今井哲夫
印刷人 小田信夫
定價一部 10円
（毎月1回10日発行）

野球特集

二七年度の抱負

柏崎野球連盟副會長
新潟県野球連盟理事
新潟県ノンプロ野球連盟理事
片山源四郎

吾が柏崎球界に縣下に劣るものがあるならば、唯一つグラウンドの設備だけである。但し高校の如き県下否全国高校にも類のない樣な立派な球場をもつているものはあるが、これは私物であつて一般に開放出來ないものである、私の言わんとするものは市営球場である。現在の市經済から見て急速なる實施は無理とは思うが市会の盡力さえあれば吾が球界の関係者が一致して運動を展開したならば五年計劃位で立派な球場があまり無理しないで出來上るものと信じている。現在に於ても一日として忘れてはいない心算である。折々話し合う市会議員の方々にはお骨折を御願しているし球界の関係者にも計劃を話し合つている。

先づ第一年目には、市から適当な土地を（但し種々な條件があるから、此れが一番難かしい問題とは思う）提供して頂く事である。それは將來五〇〇〇から一二〇〇〇位の収容力を持つスタンドを設けるだけの餘地を含む敷地である。地ならしや土入れ等は参加球団員の勞力と各球団の所有トラックの無料奉仕等經費の一端でも助ける可能性は充分考えられる、又市側で意があるならば何をやめてもこの運動を展開する、現在は運動を展開せぬから市側では默しているのかも知れないとも思われるが、いづれにしても、寄りより一休となつての話し合いをつけねばならないと思つている。

二年目は柵とか、塀三年目四年五年とスタンドをバックネット裏、一、三壘側と順次に作りあげる樣にすれば、一擧に一〇〇〇萬乃至一五〇〇萬円もかけるより年々二〇〇萬円位の支出でずつとやり易くなると思う然して、この二、三百萬円が亦困難であろう、但し全部市費で出してくれとの考えではない、先記の樣な勞力奉仕もあるし、私の考えでは、市の觀光協會や旅館組合なども当然一肌ぬぐべきであると思う、現在の市への外客誘致の數字は運動関係を第一と見て差支ないと思うからである、今年度の野球だけの行事を見ても県大會二、上越大會三、その他七市の綜合大會、勤労者大會、少年野球大會等々シーズン中には相当數の選手及び応援團が來柏するのである、大した經費もかけず、宣伝もせず、多數の人をよび寄せるには運動関係が第一である筈だ、是非是非此等の団体も本腰になつて「市営球場建設期成同盟會」でも作つて、全市一致市営グラウンドの建設を今年度こそ計劃實現させて頂く樣念願している。

——○——

さて球場が出來れば當然のこと、プロ、ノンプロにかかわらず、いゝ試合が見たいし見せ度いのである一昨年は最初のプロ、巨人對大洋の公式戦を見た又ノンプロの雄、大日本土木と新潟クラブの一戦、早大、中大、農大と學生野球の雄も來柏しているが、毎年プロ公式戦一、二回、ノンプロの優秀チームの試合大學野球部の誘致等続けたいものである、本年も一応プロ公式戦の目標は立てゝはいるが果して實現するかどうかは、一生懸命で検討中である、中央に出て見る機會の少ない柏崎のファンの方方及び選手の各位に是非見せてやり度いものと常に思い續けているが實現出來ず誠に非力な點恐縮に思つている。この事も實は高校の球場を借用しての仕事で種々制約を受けているので尚更痛切に市営球場が欲しくなつて來るのである。

いゝ試合を余計見ることによつてファンの眼も肥えて來るし選手の技倆も向上するし監督主將は試合の運行も上手になり何かとプラスになることと思う、それによつて待望の新潟県制覇の夢も実現出來ると言うものである、と信じている。

立派な球場を持ち、いゝ試合を余計見て、熱心に練習したならば上手になるのは受合である、ノンプロでも軟式野球でも、高校も少年野球も、柏崎には歯が立たぬと言う時代が必らず來る事を信じている。

プロ野球漫語

ベースボールマガジン社々長
池田恒雄

プロ野球の世界は、今シーズンとても大きな變化があつた。何がそう變つたかといえばフランチャイズ制がしつかり出來上つたからなのだ。今までは事實有名無実、今年からはというわけで、ともかくフランチャイズを數いて一応、アメリカ式のチーム展開法を採つたのだが、さて、狹い日本にセ、ベあわせて十四球団めじろ押しにならんだチームが、区切られた球場で、區切られた取あわせでゲームをするとなると、非常にいいカードを見られるところと、見られないところとが出來てくる。たとえば南海—西鐵戦とか、名古屋—阪神戦とかは東京では絶對お目にかゝれないし、巨人—名古屋戦や、毎日—西鐵戦などは、絶對関西では見ることが出來ない。

この書入れゲームを見たいと思うファン諸君は、是が非でもラジオに嚙りついて、一句も聞きのがさずと耳に神經を集中しなければならないから大變だ。だが、それ以上につまらぬ思いをせねばならなくなつたのは地方の野球ファンである。去年までなら、年に一回ぐらい恒例のプロ野球地方巡業が、スケジュールの中に組まれていたものだ。それだから相當に面白い顔合せと來たのだから、こたえられないわけだつた。

ところが、今年のフランチャイズ制によると、本據地のチームは一シーズン中にフランチャイズを中心にして、その周邊の球場で、六十ゲームを消化しなければならなくなつてしまつた大体九州、中國、關西、東京の四ヵ所が全十四球団の本據地になつてるから、いいカードは殆んどここに集中する。もし消化出來ないとなるとカードを賣りに出すのだが、賣りに出されるようなものは、ロクな顔合わせではない。切角首を長くのばしてる地方ファンにお目見得するものが、こんなものとなる。これはどう考えてもガッカリものである。

それに第一、同じ顔合せばかり多くては、いくら都会であつても、そう多くのファンを吸集することは出來ない。從つてお客も來なくなる。三段論法じゃないが、そこで再びスタンドのお客の数より、球團関係者の数の方が多い試合日が沢山増加しようというもの、つまり結局のところ、水増ゲームばかり續いてプロの人気がパッとしなくなるのではなかろうか。各球團とも、また〳〵赤字赤字で懐工合ばかり考えなければならなくなるのだ。

しよせん、懸聲ばかりのフランチャイズ制は、日本ではまだ時期尚早というところ。やつぱりお客を入れることを考え、地方のファンにもちよい〳〵いいゲームを見せるスケジュールを組むことが大切だ。

× × ×

今年の大きな異變の第二は何かというと、各チームのニュー、フェイスの、しかもいきなり第一線級選手に交つてボールを握り、バットを振ろうという連中が殆んど高校の新しい卒業生で占められていることだ。これは大きな變りようという。ちよつとビック、アップして見ても、西鐵の中西という大物をはじめ、國鐵の宮地、佐藤、大辻、大洋の神田、吉成、廣島の大田垣、大映の上市など、どこに出してもはずかしくない。どれを見ても地方球界で鳴らしていた豪のものぞろい。各チームの首脳部連も今年のこの傾向には、相恰を崩している。そのために地方球界の動きが活潑になつたのも事実だ。

さて、この現象はどういうわけかといえば、終戦後急激に活況を呈した野球熱で、當時の小學校生徒のほとんどが、野球の中に大きな目標を見つけだしたからといえるからだ。その少年たちが、今年あたりから、續々と高校を卒業して大學へ、プロ球界へと伸び出したのである。野球興隆ですつかり下地が、中學高校で造られているのだから、そのまゝ本舞台を踏めるのもあたり前のことである。これは、使用したくない、と言つている事は、流石新人養成の大家だけある一軍に使うべき新人には一年とか一年半とかの期間をかけて、一軍たるべき技術の訓練型式が別にある筈である直ちに二軍に入れて、二軍同志の試合により鍛練する事は二兎を追う事で、極めて非能率的な事となる。即ち二軍戦も直接勝敗を目的としている限り、それはそれなりの練習方法が當然ある筈だからである。

素人野球監督論

今朝雄

勝敗を度外視して、樂しむ野球には、監督は不要である、監督に就任する時に、何か目標とする、勝敗があつて、それに向つてチームを仕上げて行く事が使命として負わされるに違いない、從つて逆に言うなら、勝敗の歸趨によつて監督の成績が云々され事も亦理の當然である。

× × ×

監督たる者の、先づ第一の仕事は、その目標の明確なる内容分析と正当なる解釋である、此の簡單な事が案外、等閑に付されている傾向にある、新制中學の野球が高校野球部のファーム、チームの如き指導を受けたり高校野球がプロ的な練習型式を模倣したりする失敗がかなり多く繰り返されている。それらは夫々に最終目標が明確に異るのだからその指導の方途も確然と區別さるべきである筈である

× × ×

學校（中、高）に於ては、一年間の試合の計劃が一応系列的に第一次豫選、第二次豫選、優勝戦と、順序よく並べられているのが普通である、そしてその期日も例年の例で、大体大した前後なく豫定されている、從つて、その期日までに、豫想されるその試合のレベルまでに、チーム力を高める事がその計劃の基本となる如何に高度のものを望んでも、それが、その期日に間に合わなかつたら意味がない、例え欠點だらけであつても、その期日までには一応その試合に勝ち得るだけの、チーム力にまとめ上げねばならない、そこに監督の眞の手腕と力倆の發揮がある、阪急の濱崎監督が、自チーム中の、眞に期待する有望新人は、今年から実施される二軍戦の選手として、使用したくない、と言つている事は、流石新人養成の大家だけある一軍に使うべき新人には一年とか一年半とかの期間をかけて、一軍たるべき技術の訓練型式が別にある筈である直ちに二軍に入れて、二軍同志の試合により鍛練する事は二兎を追う事で、極めて非能率的な事となる。即ち二軍戦も直接勝敗を目的としている限り、それはそれなりの練習方法が當然ある筈だからである。

× × ×

最近プロ野球では「確率の野球」と言う事が強く主張されている、この事はたしかにプロ野球の進歩である然し、學生野球乃至は柏崎あたりの会社チーム、クラブチームが、この原則に立つ事が新しい野球、進んだ指導精神とは一概には言えない、何故なら、年間百何十試合と言うプロでこそ「確率」の意味があるのであつて年間二試合そこ〳〵の素人チームに於ては、それが技術的に低ければ低い程「偶然性」が強い。この「豫期せざるもの」を如何に豫期するか、こゝが勘所でなくてはならない、あの老兵軍柏崎クラブの存在価値も実はこゝにある、一本勝負に於てこそ、彼等の持ち味が出るのであつて、長期戦（ましてプロ野球だつたら）は絶對に出來ない彼等の生命は、この「豫期せざるもの」を豫期してのソツのないプレー（長年の実戦經驗による所謂勘）と若い敵軍の「豫期せざるもの」を奇襲しての「偶然性」を狙う、心理戦法にあるからだ。

× × ×

「一死走者一、三壘」この時プロだつたら、深く守つて「4・3」の併殺を狙うのが定石やゝ。進んだチームだつたら一人四球で歩かせて滿壘本壘封殺態勢をとるだろう、更には、そのまゝ、スクイズプレーを見越して、バッテリーのトリックプレーを期待する場合もあろうし、前進守備に入る場合もあろう。それは夫々に回数及得點差によつて決定さるべき事は勿論であるが、判斷の最も基盤をなすものは、そのチームの力である、無理を強いて失策を誘發し大混乱を見る事がまゝある、これは、その失策した選手よりむしろ監督の机上空論式指揮を責むべきである、プロでは少くともプロの面目に於てあまりヘマも出來ないが、三原や浜崎は割合平然と、これをやつている私はこの點でこの二人を高く買つている。

× × ×

打者として三振してもよいと言う事はない、然し高度の技術を持つ野球では三振と凡打の價値はあまり相違がない、何故ならアウトになる事に變りがないから中でも、むしろ走者のある場合には、下手にゲッツーコースへ凡打を呈すより三振した方がよい場合もある然し中學級では、絶対に三振してはならない、何故なら易いのだが、この弱點を突く走者の動作が又実にもどかしい、チームの完成の爲にフイルデングとバッテングにのみ全力をあげて、走壘にまで力及ばずして試合にのぞむ事が多い樣だが試合に出るには、その爲の計劃を明確に立ててこの事を忘れては攻撃力が半減する事を銘記すべきである。

× × ×

試合数の極めて少ない素人チームの練習の難點の一つに種々の變化に対する應用動作を如何にして訓練するかと言う事がある、素人チームの共通の欠點として一つの失策が、更に他の失策を誘發し易い事である、そしてその反面攻撃側ではこの一つの失策を二つの失策にする樣に機敏に乘ずる事の不手際さがある、この事は平素の練習に於いて監督が常に一つの假定條件を付しての實戦的の練習を行う以外にはない、單に慢然と内野ノックだと千變一律の如く繰り返したのでは試合場の混乱はさけ難い、練習を如何に実戦的に綜合化するかが素人監督の鍵である。プロでは實戦続きの中に如何して各人の技倆を基礎力を維持し向上させゆくかが問題であり素人監督では練習に於て如何に実戦に役立つ技術を体得させるかが問題となる。

× × ×

要は模倣ではない、常に自己が前進する事である、昨年の名監督たり得ず名選手必らずしも名監督たり得ない監督術は一種の天才的資質である、更に言うなら野球を最も愛する者ならでは絶對になり得ない。野球を熱愛する天才兒が、そんなに方々にある譯がない、實績を残している監督は、その稀な天才兒の一人なのだから、お互にもつと大事にし大いに敬意を表すべきだ、その人の一つの欠陥の爲にその人をその地位から追うが如き（それも野球人自らの手で）事は野球界に於ける重大な不幸と言うべきである。（三月二五日）

一つの日本野球界の飛躍といつてもいい。しかも少年たちの憧れは、いきなりプロにとび込んで、赤バットの川上選手を夢見るのだから、どうせやるなら六大學を目ざして廻り道するより、直接プロに入つて、バリ〳〵働ける若い時代に野球で名をなそうという現れと見ても差支えあるまい

日本の国技の相撲が、部屋制度を未だに採つていることは、体格のいい少年たちを子養いから育てあげ、大力士に仕立て上げるのが目標で、もしこれが無かつたら、おそらく大力士は生れて來ないかも知れぬ。アメリカの野球には大リーグの下にファーム、チームがあり、有望選手はここで一二年間猛練習を受けてドシ〳〵大リーガーに育つて行く。日本ではやつと二軍制の重要性が強く叫ばれ、ようやく今年からは二軍戦を展開して、名實ともにファーム、チームらしい形を整えて來たが、このファーム、チームの下地が、各地方の中學高校あたりで造られて來るとなると、日本のプロ野球もメキ〳〵向上して行くだろう。これは何としても喜しいことに違いない。これで立派なしかも若い選手で埋められたチームがいゝゲームをくり展げれば、あるいはフランヤチイズ制のヘイも吹飛されてしまうかも判らない。

× × ×

最近プロ野球では「確率の野球」と言う事が強く主張されている、この事はたしかにプロ野球の進歩である然し、學生野球乃至は柏崎あたりの会社チーム、クラブチームが、この原則に立つ事が新しい野球、進んだ指導精神とは一概には言えない、何故なら、年間百何十試合と言うプロでこそ「確率」の意味があるのであつて年間二試合そこ〳〵の素人チームに於ては、それが技術的に低ければ低い程「偶然性」が強い。この「豫期せざるもの」を如何に豫期するか、こゝが勘所でなくてはならない、あの老兵軍柏崎クラブの存在価値も実はこゝにある、一本勝負に於てこそ、彼等の持ち味が出るのであつて、長期戦（ましてプロ野球だつたら）は絶對に出來ない彼等の生命は、この「豫期せざるもの」を豫期してのソツのないプレー（長年の実戦經驗による所謂勘）と若い敵軍の「豫期せざるもの」を奇襲しての「偶然性」を狙う、心理戦法にあるからだ。

× × ×

プロでは、打者として欠點を持つていたら零點だ、インハイなら絶対ホームランだと言つても、アウトローに手が出なかつたら案山子も同然だ、然し學生野球（中、高）では、そんな事は平氣だ、敵投手が、その欠點長所を発見する時には試合が終つているのだから、一試合中の二十近い自分に投げられる球の中一つでも二つでも自分の好きなコースに入つて來る球を待てばよいのだ、そしてそれを打つ事によつて、その打者としての責任が充分に果されるのだ。プロでは欠點がその選手の全てを決定する評價基準となるから、欠點の最も少ない事が大打者の資格となるが、學生（就中中學生）では欠點はさて置いてその長所が大きければ大きい程そのまゝ偉大な打者と言い得るのである、從つて學生野球の大打者即プロの大打者とはなり得ない事は事実が證明している。

× × ×

從つて同樣の見地から、素人チームは素人程、球それ自体に偉力のある投手が有効となる、コーナ、ワークに特別の技巧を持つ事は高級な野球に於ける程の價値がない、素人チームには鋭いカーブか速い球を持つていたら少々コントロールに難があつても充分に使える下手にコントロールされた球は、かえつて思わぬ「偶然性」を狙われる事がある筆者は嘗つてある中學生同志の試合で、大會隨一の好投手と言われた投手が二死無走者カウント二、一の後頭の上を通る捨て球がインコースに流れた所を、ホームランされて、その一點で涙を呑んだのを見ている、プロでは考えられない事だ

× × ×

話は最初にもどるが、一定の期日までにチーム力を一應まとめると言う事で案外忘れられている事は走壘術である、特に中學生などでは、ランナーが出ると偉力の半減する投手が多い、野手もランナーに氣をとられて極めて不安な狀況になり易いのだが、この弱點を突く走者の動作が又実にもどかしい、チームの完成の爲にフイルデングとバッテングにのみ全力をあげて、走壘にまで力及ばずして試合にのぞむ事が多い樣だが試合に出るには、その爲の計劃を明確に立ててこの事を忘れては攻撃力が半減する事を銘記すべきである。

× × ×

阿部　いよ〳〵A級も決定し、四月六日の球場開き西日本野球柏崎市豫選會の組合せも決定し、シーズンの幕が、華々しく切つて落される樣としています、此の時に当り、雪の半年を、耐え忍んで來た柏崎のファン諸氏の爲にその前奏譜を送り度いと考えます

ところで、早速、本年度のチームの變動、特に強化された面等についてお願致しましよう、先づユニオンから

若山　昨年と全然變りありません、由來ユニオンは団結力と勝負の強さを誇つていたのですが、その實は、夫々が異つた職業を持ち、休日が一定しない爲、總力の結集が仲々困難であると言う點が泣き所なのです道具を揃えて、いざ出かけようとすると、お客が來る、まさか捨てゝおくわけにはゆきません

（その通り、アゴが干上る）――その合の手あり一同大笑い――

集まりが悪いと、相手チームに色々と御迷惑をおかけする、仲間同志もヤキモキする、まあ問題はその邊の對策如何で、これが本年の眼目です、この間もみんなで、今年は試合の前後一週間位は映画にも行かず、夜業残業でガン張つて、試合中心主義を徹底しようと申合せましたから今年は相當期待に答え得ると思つているのですが

阿部　今ロをかけている樣な有望新人はありませんか

若山　今の所はありませんごく若い所で一人二人見當はつけていますが、試合に使える樣なのではありません

樞軸一新日石

監督　小山氏
主將　清水投手

阿部　ついで昨年の覇者日石はどうですか

小山　長年の恩人、太田さんが退いて、私が監督になり、私はベンチに入り私の後へ(一壘)左の青木が入ります、その點大分攻守共強くなります

片山　監督の事は別として小山氏と青木では、強化ではない、それは謙遜だ南海の山本式にプレーもやるんだな

石丸　しかし、いやな時にピンチヒッター、として出られるのもかなわないヨ

小林　いや強化されたと言う事にして、監督さんの言う通りにしておいてもらいましよう

――笑聲――

阿部　ところで新監督さんの、新らしい構想を一つお願したいんですが、何か特に考えている事はありませんか

小山　昨年來の懸案事項であつた、試合運行のマスター、細かい動きと言うか、基本的なセオリーの確認と言うか、所謂コクのある試合、ソツのない試合、そんな點を目指してかなり細かく考えてきて行くつもりです

片山　これは大變な事になるゾ

河合　完全に柏崎では無敵となりますネ

小山　本當に仲々困難な事で、そんなにうまくゆかないでしようが、然し方向だけは、そこへ持つて行くべきだと思つています

阿部　ところで、主將はどう決まりました

小山　投手の清水君です、これについては清水はまだ若いし投手としてもこれからまだ〳〵隨分研究もして行かなければならない人だし多少無理とも思いましたが、今脂の乘り切つている盛りに眞の意味の責任を持つてガン張るのも悪くわないとも思つたのです、鐵は熱い中に鍛えろ、とか云う言葉通り、名実共にチームの中核となり修養してもらうつもりです

※賛否兩論あつて、ガヤガヤ、ヒソヒソ、ガヤガヤ

阿部　花岡はどうなりますか

小山　私の手伝をしてもらうつもりです

阿部　ところで、今年のトレーニング竝に見通し

片山　勿論一番早くはげしいトレーニングをし、全勝が目標さ

阿部　まあ〳〵、そう早まらないで、それでは味がありませんし、話の種が切れます、小山さんどうぞ

小山　あまりヒヤかさないで下さいよ

昨年は三六勝七敗八劃三分の成績でした、それは勿論それ以上の成績を望みますが、仲々の大仕事です、それが精一杯ですよ

トレーニングは、二月二五日から、体操、三月十日からキャッチボール、昨二六日始めて高校球場をお借してグラウンドに出ました

今年の吾がチームを語る

三月二七日午後三時より
市役所小會議室にて

出席者
東北電力　山崎龍之助
ユニオン　若山慶吉
日石　小山梅吉
帝國石油　今井実
柏崎クラブ　片山源四郎
理研　小林富雄
市役所　石丸大次郎
河合末美
司會体育團　阿部芳郎
柳喜八郎

阿部　帝石さん、一つ

今井　今年は新らしく再出発です、古い人達に代つて、今までベンチを暖めていた人達を中心に出発します、監督も主將も名實共に陣頭指揮で、若さの熱と意気でガン張つて見るつもりです

新人としては藤澤（柏工卒）坂井（新發田高卒遊撃）の二名が入る

阿部　メンバー一新と言いますと、投手はどうなるのです

今井　投手はやはり、名古屋、布施、それに私も時時は投げて見るつもりです

若山　變つてもらい度い所はチットも變らない、名古屋はいゝ投手だ安定感がある

千原、熊木のバッテリー
理研の強化は更に續く
大倉、重原、押見も入るか

阿部　次に、いよ〳〵問題の理研と行きましよう

小林　昨年來の選手として殘るのは、平田（遊撃）等の三人位で、他は全部新人で編成されます、まあむしろ今年から本当の野球を始めるのだと言つた方がよいでしよう

阿部　千原（柏高卒）熊木（柏工卒）のバッテリーは本極まりですか

小林　既に一月も前から仕事をしています

河合　もう眞黒になつて猛練習しています

阿部　これはどうもお見それしました、それに遊撃に平田がいますが　他に話はないのですか

小林　今後の補充については会社も種々考えている樣ですが

阿部　目星しい所、聞かせていただけませんか

小林　チット困ります、まだほんのうわさ程度なんですから

※それを聞きたいの声しきり

小林　まあ大倉（柏高）重原（柏工、一壘）押見（柏工三壘）等ですがどうなりますか

阿部　これはすごい、どうです、一大脅威ですね

ダークホース市役所
月橋、布施、松原、河谷、黒崎
井上、石丸と玆ぶ打線の威力

阿部　千原投手については又後で檢討するとして、市役所の陣容をきゝましよう、石丸さん

石丸　今までの市役所チームは、市役所職員組合の体育部の野球愛好家の集まりだから、選手數も二〇〇名餘りだつた

――笑聲――

今年はチームとして強力な組織を立てた、即ち私がマネーヂヤ、監督は月橋課長、主將は井上さんと、実に堂々たる布陣です、新人には、柏高から布施が入りました

阿部　なる程隨分そろつていますね、一躍A級の優勝候補ですね

石丸　月橋監督井上主將の指導陣が非常にガッチリしているから、チームワークの點は絶対的に自信がある、大きくくずれるとか、元氣をなくするとかと言う事は絶對にない

投手は河合、村田の硬軟二人の使い分け、捕手黒崎、一壘が私（石丸）二壘に井上、三壘に布施、遊撃松原、と並びます

阿部　その内野も大したものだが、それよりむしろこわいのは月橋、布施、松原、河合、黒崎、井上石丸、村田と續く打陣ではないのですか

片山　昨年も投手力はよかつたのだがバックが悪かつた、その投手力はそのまゝで、他を變えると言う事になると、これも強化か、コツチは困るな、

――笑聲しばし――

阿部　東電はどうですか

山崎　よそが皆強化されているのに、東電は弱化です、遊撃と左翼が抜けます、勿論補充する人は多勢いるのですが、仲々舊人程の技倆にはゆきません、頼むは、自信を得益益円熟して來た好投手田邊の健斗と、竹田の打力です

片山　問題は、これ等の若い高校出身者が、果してうまくチームの中に馴染めるかどうかが鍵だと思う

若山　その通りです全然息がつけませんね

片山　河合、村田、の投手力さえ安定すれば、日石を破る可能性が最も高い

石丸　實は昨年一回勝つてるですよ

片山　昨年のあの試合とは今度は違う、布施、松原河合も硬球とは違うからな、松原、河合も、昨年はそんなに打つていない、やはり月橋、井上だよ

山崎　井上さんは、いやな打者ですね、こわくはないが――笑聲

阿部　さて最後に片山さん柏崎クラブは、どうです

昨年は全く評判倒れ、大分この頃風當りがある樣ですが、それに月橋、井上と大事なところが市役所チームのA級加入で欠けるわけですが

片山　月橋、井上の抜けるのは確かにいたい、然しむしろ、柏崎クラブの昨年の不振は、投手力の弱さだつたのだから、阿部の軟投一人では、どうにもならない、馴れられればそれ切りだつた、その點今年は、岩下（柏商卒）石黒（前ライオン柏高卒）のバッテリーを補充したから、全然遜色ないむしろ一昨年以上に強いよ

阿部　よくわかりました、大層な気の入れ方ですが他の六チームが隨分強化されているんですが大丈夫でしようか

片山　バッテリーさえ強化すれば、新野、神林、阿部はやつぱりクリンアップトリオとしては柏崎第一だよ、この三人を中心にした老練が試合運行の妙を大いに發揮して『野球とはかくすべきもの』と敎えてやるよ

河合　相變らずですね、全く口のチームだ

片山　冗談じやない、今年はその上更に『勝つて見せる』つもり

清水（日石）と千原（理研）

阿部　これちや話になりませんね、どこか何んとか出來ませんか

日石の投手は清水一人でしよう

小山　そうです、左の青木が大分よくなつて來ましたが、まだ場馴れしてないし、一寸

阿部　清水一本とわかつていて、清水攻略の策がまだ各チームに立てられないんですか

若山、石丸、　大体考えていますが、仲々ね

阿部　日石では、清水がマークされている事はお聞きゝの通りで、これも豫め作戰の中に入れている事でしようが、何か清水に新しい球でも

小山　実は秘策をねつて、研究させているんですがこゝでは一寸、かんべんして下さい

阿部　皆さん、お聞きゝの通りです

片山　要するに、今年は對――笑聲しきり、ワアワア、アハハハ――

阿部　さてこれで一応各チームの陣容を伺つたわけですが、端的に、何處が一番強いでしようか、豫想を一つ

片山　やつぱり、日石だね清水が健在だから――清水は最も自責點の少ない投手だ、日石はとに角相手に得點を許さないから打撃は大した事はないのだが

若山　同感です、いつも2對1或は1對0ときまつています

――異句同音に賛成――

清水の作戰が勝負の見所となる訳だ

阿部　清水君の話が出ました、各チームの、投手力を一寸檢討して下さい、東電の田邊はどうですか

山崎　仲々いゝですな、特に期待しています

片山　田邊は精神的に弱い始めから、自分のチームは弱いとあきらめて投げている尤もそれがかえつてよかつたのかも知れないが

山崎　確かに、そんな氣持もあつた樣だ、昨年隨分打たれたので、今年は心機一轉張り切つている

阿部　今年一番の問題、理研の、千原はどう思いますか

片山　千原の球は輕そうだから、軟式ではそうこわくはあるまい

若山　軟式ちや、あれ位のスピードは、そう恐しくはない、ドロップも、あまり切れがよいとかえつて打たれるのではないかと

ユニオンは練習不足で一ばい一ばいだが、中村、若山、竹井を中心に監督主將も打つて一丸となつて精鋭主義でブツかつて行く決意おく。

阿部　町内対抗の優勝六丁目の主戰投手として一応買いませんか

若山　六丁目の優勝は千原ちやない

石丸　千原の投げた時はむしろ打たれていた

片山　然し、四年間もブレートに立つた千原だ、そのブレートさばきは、やはり注目をすべきだ、投手術は一通りも二通りも心得ているし、あの体とあの若さだ、気を入れてやれば、すぐ軟式をマスターする

阿部　今年一年の研究が大事と言うところですか、次に攻撃陣を眺めて下さい

日石は清水健在で、今年も柏崎では優勝候補の隨一だが新監督小山氏の責任は重大である。小山氏は選手間にウケも良く清水投手の欠點もほぼ是正している樣だから今一歩積極的に働きかけたらと思つている、本間の打撃を中心にして、花岡、荻原、黒崎と新人青木左打を加えて此處で點をかせがねば昨年の轍をふむ事になる、親友小山氏の爲に期待と同時に一言申上げておく。

ユニオンは練習不足で一ばい一ばいだが、中村、若山、竹井を中心こ監督主將も打つて一丸となつて精鋭主義でブツかつて行く決意

球團展望

片山源四郎

の程を見せているが、プロなどと違つて、試合のある日は限られているのだから此の意気で行くと今年は相当かせぐと思う、ただ坂井投手一人の力では一日二試合三試合をものにすることは出來ない、もう一人か二人新人投手を見つけない事には今年も危險である、中村若山、竹井、石黒、小林、野村とこゝにも相当ウルサイ打者が揃つているがこの處練習不足でバットしないクラブチームのむづかしさを今更言わぬが若き集まりなどと違つて、試合のある日は限られているのだから此の意気で行くと今年は相当かせぐと思う、ただ坂井投手一人の力では一日二試合三試合をものにすることは出來ない、もう一人か二人新人投手を見つけない事には今年も危險である、中村若山、竹井、石黒、小林、野村とこゝにも相当ウルサイ打者が揃つているがこの處練習不足でバットしないクラブチームのむづかしさを今更言わぬが若き集まり

帝石チームは、よき指導者石黒氏が東京に轉じたのでいささか淋しいであろうが、今まで手をとつて敎えてもらつた事がもう出て來てもいゝ頃と思うが、何か物足りなさを感ずる。おとなしいチームカラーのせいかしら。

名古屋、布施、今井ももう老練選手の名の方に入る樣だが新人を掘り出して一花咲かせては如何、投手力も攻撃力も一奮發以上せぬと柏崎の一流にもなれないと思う、試合中は紳士の面をかなぐり捨てゝたまには勝負の鬼となつて見ては如何

東北電力はAクラス三年目、大分メンバーに變動があつた樣だが勉強の仕直しで気分一新亦よき哉と思う但しこのチームは試合が下手だから、よきコーチを物色してその點勉強する事だ田邊投手にしても、いゝ投手であると他は信んじているのだが本人は今日も負けかと思つている樣な態度でいるがもつと自信をつけるべきだ、又自信を持てる筈だと思う、武田を中心に相當いゝ打者を揃えているのだから田邊投手の失點位はかせげると思うが如何、新人の指導如何が此のチームの今年の成績表に出る點數がある。

新人と言えば今年のAクラスの新人理研チームは今年の柏崎否新潟縣の野球界を一手にとの大抱負のもとに結成せられた三井田課長

〔三面へ續く〕

トップ、ボールと打撃

片山　六日の「西日本」と「讀賣新聞」は「トップボール」を使用する、これを計算に入れて考えると高校出の硬式をやつた連中が恐ろしい

阿部　トップボールについて

若山　打球の延びが大分異う、しかしそれより、やはりゴロの速さが違う、

片山　重いバットを使わねば駄目だ

阿部　硬式バットですか

河合　日石では、この間の練習で一日に、硬式バット二本折つている

石丸　ライトに流す事が出來るし、うまくミートすればホームランになる

阿部　打席に立つて、こわくありませんか「死球」はどうなりますか

片山　速い球はこわい「死球」は勿論、ワンベースだろう

その點硬球出の打者は恐れないし、バットにはなれているし警戒しなくてはならない

柏崎クラブの新野、阿部等は嬉んでいる

超弩級本間（日石）

阿部　日石の本間

片山　あれはすごい、あんなのが、もう一人いたら日石も大したものだ、あの馬力と走力はちよつと圖抜けている

河合　トップボールの場合理研の、平田、千原、熊木のクリンアップ、トリオもいいと思う

阿部　大分長時間に亘り色々有難う御座いました最後に何か、希望を一つ

片山　市營グラウンドが欲しい、の唯一言

石丸　全く同感

――同感々々――

阿部　ではこの邊で終りたいと思いますが、最後に一寸、それは、理研は、六日の試合には（明治大学）式の、英語の、マーク、入りの新ユニフォームに、初舞台を踏む由、爲念にお知らせしておきましよう

――拍手――

（文責阿部）